

◆【投稿】AI(人工知能)を包含する Embedded Knowledge (埋め込み知)という視点  
(副理事長 山崎秀夫)

さて前回説明しましたクローズド・レビーストロースによる構造主義は、その原点においてスイス出身のフェルディナンド・ソシュールの「記号論の研究」を下敷きにしています。レビーストロースによれば、社会の中にも「言語の中にある記号(言語構造と呼ばれる規則性)」と同じ構造がある(人々の考え方や発想、振る舞いにも一定の規則性がある)と言うわけです。

この記号論の研究はフランスにおいて花開きました。そうした中でクローズド・レビーストロースと同時代の研究者として有名なのが、物語記号論で敢えて言えば同じフランスのロラン・バルトです。バルトは「物語の構造分析」、フランスのさまざまな文化・慣習を分析した「神話作用分析」、衣服などの流行を論じたモードの体系などで知られています。

ロラン・バルトの仕事の中で有名なのが、未だに頻繁に議論されている「物語の構造分析」とそこに収録されている「作者の死」です。文学作品とはさまざまなものが引用された織物のような構造を持っており、それを解くのは読者であるとして、芸術作品に対してこれまで受動的なイメージしかなかった読者の側の創造的な側面を主張しました。読者は作者の創造した作品と言う構造に完全に支配されている訳ではなく、その影響を受けながらも能動的なかわりによって、読者なりの読み方をして創造性を発揮していると言う見方です。これは社会学者アービン・ゴッフマンが提唱している役割距離行動に対応すると考えられます。「役割距離行動」とは一般的な他者(社会の構造に当たる)から期待されている行動に対して個々の個人が一定の抵抗を示し、独自性を加味して行動していると言う理論です。(このあたりは新しい産業革命の時代、知識創造理論中で何故連結化(アイデア同士や発想の連結)が秀でて重要かを筆者が考えたヒントになりました。)

知識論や知識資源論の立場からいえば、同じ社会構造や組織構造の下でも個々の研究者やビジネスマンの思考や行動の違い、個性の発揮、その結果として発揮される敢えて言えば暗黙知の違い(暗黙知発揮の方向、その内容、スピードなどの差)は、バルトの言う作者の死やゴッフマンの役割距離行動として説明されます。(ヒトの行動は必ずしも社会の構造、Embedded Knowledge によって一意には決まらないと言う事へのヒント)

思えば如何なる優れた製品やサービスの裏には、暗黙知の発揮を支える組織文化や組織のプロセスなどの構造が必ずあります。例えばトヨタのモノづくりの場合には「名古屋の尾張文化に対抗する三河文化」が背景にあると言われていました。それを知識視点で見れば Embedded Knowledge と言う事になります。そして Embedded Knowledge は飽くまでも土台であって、その上に個人の個性や経験、遺伝的な生得的能力、偶然の

出会いなどがからんできます。

筆者が社会構造と知識の関係で非常に面白いと思っているのは、バルトの都市論です。バルトは都市空間をテキスト(物語)と考え、都会に暮らす人々は都市(の構造)を様々な記号として読み、学びながら暮らしていると考えました。人々は都市に生まれ、都市を読み、都市から学び、創造性を発揮して都市そのものを変えながら暮らしていると言うわけです。これは現在まで続く都市論の主要な潮流の一つになっています。

シリコンバレーや深せん、渋谷のビットバレーなどのスタートアップ企業は、それぞれの地域が持つ Embedded Knowledge を背景として個々人の作り出したイノベーションの斬新な内容がストレートに生かされており、イノベーションのスピードが高速化されています。テスラのようなスタートアップ企業や中国企業が「構造の簡単でエンジンが不要な電気自動車(EV)開発」を選び、推し進めるのも、トヨタのような既存の大企業が、自動車業界の外に対して大きな参入障壁となる「エンジン開発」を伴う水素カーである燃料電池車の開発を無意識に追及するのも、明らかに背景にある Embedded Knowledge の差であると考え事が出来るでしょう。筆者も法政大の小門先生のゼミと共に 2018 年 2 月に深圳を訪問しましたが、日本企業と全く発想の異なるモノづくり、サービス支配論理の具体的な形に圧倒されました。確かに「深圳のモノづくりはモノに目線が無くソフトウェアの作り出すサービスに目線がある」からたった 3 年で壊れても構わないスマートフォンが作り出され、売れるんですよ。(一方、モノづくりに目線があるガラケーは 10 年持った。)

契約書が無く、納期も守らず、偽物前提、不良品前提、前金と夜逃げ前提と言う、オープンイノベーション+偽物文化が支える Embedded Knowledge (埋め込み知)を背景とした深圳メーカーが世界のハードウェアのシリコンバレーと呼ばれる理由がわかったような気がします。

以上